

手帳・ノート併用者の52%が「手帳1冊にまとめたい」

「手帳ユーザーに聞いたノートの使い方調査結果」

手帳ブランド「EDIT(エディット)」を展開する株式会社マークスは、日ごろより手帳とノートを併用している方を対象に、「仕事での手帳やノートの使い方についての調査」を実施しました。

手帳とノートを併用する人の52%が手帳1冊にまとめたいと回答、「荷物を1つでも減らしたいから」「1冊にまとまっていると効率が良いから」という理由がともに66%となり、まとめるメリットが明らかになりました。1冊ですませる条件として、最も多い回答は「携帯しやすいこと」となり、「手帳にノートページがたっぷりあること(58%)」が続きます。

調査時期：2016年10月

調査対象：男女1,103名(23-49歳)の手帳ユーザー

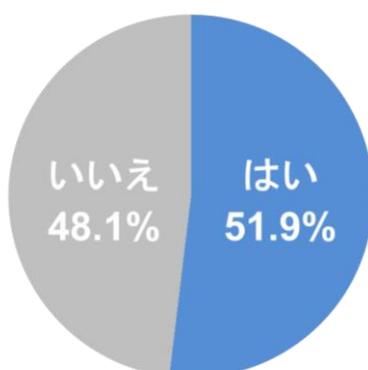
調査方法：インターネットリサーチ

■ 手帳編

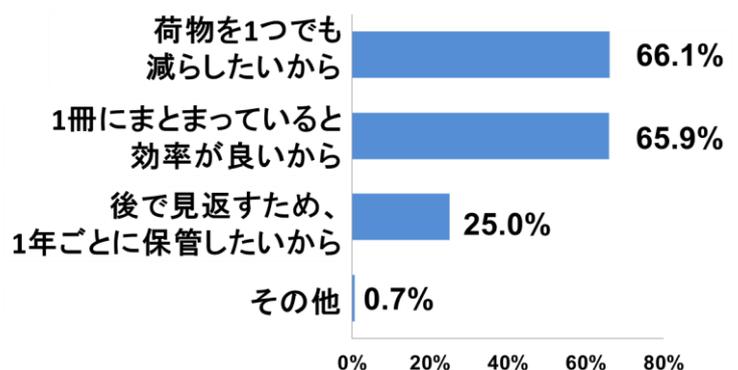
【 ノートを併用する手帳ユーザーの52%が手帳1冊にまとめたいと回答 】

手帳とノートを1冊にまとめたいと答えたのは52%で、理由としては「荷物をひとつでも減らしたい」と「1冊にまとまっていると効率が良い」が半数を超えています。

Q. 手帳とノートを1冊にまとめたいと思いますか？ (n=1,103)



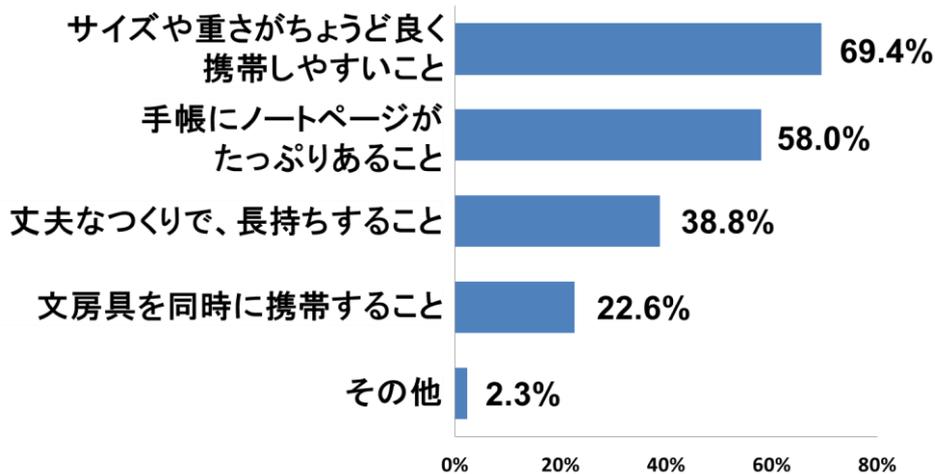
Q. 1冊にまとめたいと思う理由は何ですか？ (n=572、複数回答)



【 手帳 1 冊にまとめる条件は、「携帯性」と「ノートページ」 】

手帳 1 冊に集約するためには、「サイズや重さがちょうど良く携帯しやすいこと」と「手帳にノートページがたっぷりあること」が条件としてあげられています。

Q. 手帳1冊に仕事を集約するために、必要なことは何だと思えますか？（n=572、複数回答）

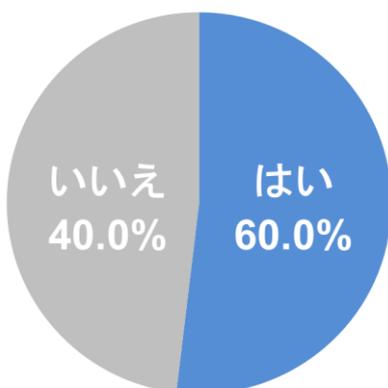


■ ノート編

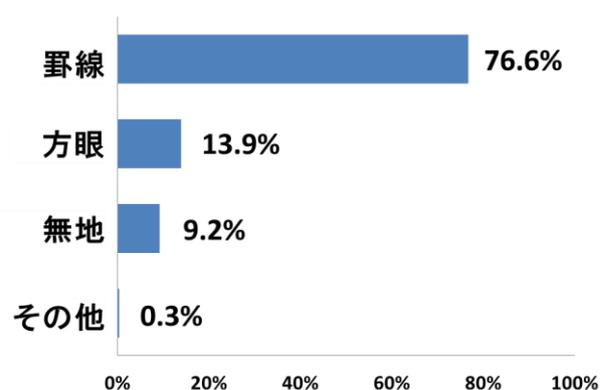
【 仕事でノートを併用する手帳ユーザーは 60% 】

仕事で手帳とノートを併用している人は 60%。フォーマットは罫線を使っている人が 77%で、ノートを使う利点としては、手書きで自由に記録できる点や、考えが整理されやすいと答える人が多い。

Q. 仕事で手帳とノートを併用していますか？（n=3,796）

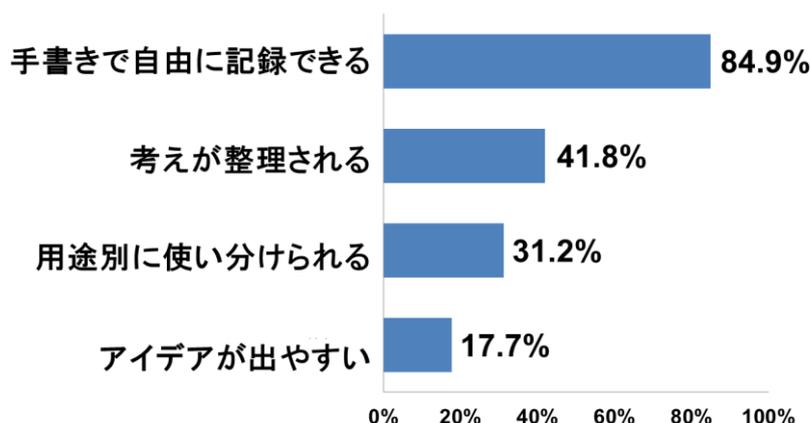


Q. 手帳と併用しているノートのフォーマットは何ですか？（n=1,103、複数回答）



Q. 仕事でノートを使う利点は何ですか？

(n=1,103、複数回答)



ステーションナリー ディレクター 土橋 正氏によるコメント

現在も仕事の中では、アナログ文具の「書く」とデジタル系の「打つ」は共存しているのを感じます。「打つ」は最終的に人にメールしたり、資料をまとめたりという最終段階で使われ、対して「書く」はその最終段階にいくための試行錯誤という意味合いがあります。「書く」は「打つ」前の大切なステップなのだと思います。

ひとつひとつの予定には付帯する様々な情報があるものです。現代ではメールの普及により次々に新しい予定が入ってきます。それらの付帯情報を書くためのスペースが必要になってきます。予定とともにタププリ書けるノートスペースが求められているのでしょう。

土橋 正 (Tadashi Tsuchihashi)

ステーションナリー ディレクター、文具コンサルタント。

文具の展示会「ISOT」の事務局を経て、土橋正事務所を設立。文具の商品企画・PRのコンサルティング、文具売場のディレクションを行っている。新聞、雑誌などの文具特集にも多数参画。著書に『仕事文具』（東洋経済新報社）、『モノが少ないと快適に働ける』（東洋経済新報社）、『文具上手』（東京書籍）など。

<http://www.pen-info.jp/>

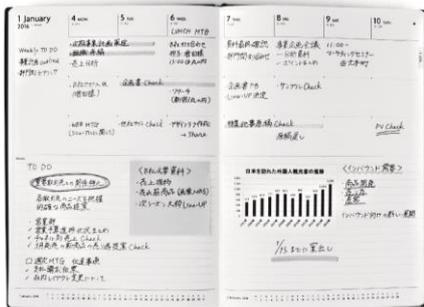
■ 手帳とノートの一体化ニーズにこたえる商品

2016年版からスタートした EDiT「週間ノート」は、「自由度の高い週間フォーマット」と「138ページにわたるノートページ」で構成し、多忙な日常を送るビジネスパーソンを中心に活用されています。商品開発にあたっては、現在のビジネスパーソンに何が必要かを考えつくしました。そこで出たのが「手帳とノートの一体化」というアイデアです。

現代社会では、スマートフォンやノートパソコンなど、持ち歩く荷物が増えています。スケジュールを管理する手帳と、たっぷりと記入できるノートを一体化させた EDiT「週間ノート」によって、携帯性を確保しました。細かい予定はデジタルで管理する人が多いため、週間スケジュールページの上半分エリアには3分割された自由度の高いフォーマットを用意しました。下半分エリアは急なメモにも対応できるノートスペースとなっています。目に入りやすい場所として、アイデアや週ごとのタスク管理にも最適です。

【EDiT「週間ノート」の特長】

自由度の高い「週間フォーマット」



上半分：
3分割バーチャル
自由にテーマ分け可能
▶ 午前・午後・夜
▶ プロジェクトごと

下半分：
ノートスペース
常に目に入り、見やすい
▶ TO DO リスト
▶ ミーティングメモ

たっぷりの ノートページ

ページ数
1年間使っても
十分な138ページ。

フォーマット
使いやすい5mm
罫線。

シンプルな 表紙

ビジネスで使いやすい
5つの表紙デザイン。



■ 1冊であらゆるキャリアに対応

EDiTのウェブサイトではEDiT「週間ノート」のユーザー事例を掲載中です。会社員からフリーランスに転身したユーザーの「仕事ノート習慣」を、実際の週間ノート使用例を元に紹介しています。

たっぷりのノートページで手帳を活かす「週間ノート手帳」

http://www.edit-marks.jp/special/howtouse/eth_betsui/

◆ 報道関係者のお問合せ先 ◆

株式会社マークス 広報担当

TEL: 03-5779-7071 E-mail: press@marks.jp

[お客様のお問合せ先 (ご掲載用)]

TEL: 03-5779-7550